



プロジェクト名

不法投棄‘事件’を検証する

プラスチックごみによる海洋汚染の問題が社会的に大きな注目を浴びています。今、社会における「廃棄物管理」のあり方が問われています。「不法投棄」のような不適正処理を撲滅していくことが重要です。このプロジェクト研究では不法投棄対策を学ぶために、過去の不法投棄事件を調べ、その判例について理解を深め、なぜ不法投棄事件が起きたのかを皆で議論しました。

また、不法投棄をなくすための方策についても意見を出し合いました。不法投棄とは、廃棄物処理法第16条「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。」という規定に違反する行為です。法律にはたったこれだけしか書いてありません。不法投棄が成立するためには3つの要件「廃棄物」、「みだりに」、「捨てる」を満たす必要があります。1つのグループは「廃棄物」とは何かについて争われた「おから事件」を調べ、2つのグループは「みだりに」、「捨てる」について争点となった事件を調べ、最後のグループは、リサイクルが不法投棄の偽装に利用された事件を調べました。

また、鳥取市の不法投棄パトロールに参加し、実際に不法投棄現場を視察しました。そして不法投棄が多い場所を1カ所選び、不法投棄防止看板を作ることを企画し、皆でデザインを考えました。一般的な不法投棄防止の看板とは違って若い柔軟な頭で考えるとかなりユニークなアイデアが出ました。このアイデアを元に最終的に鳥取市で制作してもらったのが写真1です。どうでしょうか？ちょっとゾッとさせるデザインになりましたね。実際に設置すると不法投棄が劇的に減ったと喜んでいただいています。プロジェクト研究の成果は、鳥取市の廃棄物行政の担当部局の方に報告し、不法投棄対策の提案も行いました。



▲写真1 不法投棄防止看板

学生が自分たちで考えたアイデアに対し、実際に廃棄物行政を担っている職員の方から様々な意見を頂き、また議論をすることができました。大学の中で学術的な勉強をするだけでなく、実際に現場が抱えている課題と結びつけることで、実践的な知識を身に付けることができたのではないのでしょうか。



▲写真2 鳥取市への報告の様子

プロジェクトアドバイザー 環境学部 門木 秀幸 講師

プロジェクトメンバー
プロジェクト研究2
(環境学部) 大久保 颯人、沼尾 和美、濱田 創史、李 ティ
(経営学部) 李 清和、中塚 亮吾、濱本 雅、横井 蓮、渡部 恵悟
プロジェクト研究4
(環境学部) 岡田 翔磨、小猿 愛美、坂本 すみれ、嶋田 ひより、筒井 太一
(経営学部) 池田 耀平、岡野 由佳、立石 拓也、玉越 彩矢

※今回ご紹介したプロジェクト研究は2019年度後期に実施したものです。

海岸漂着ごみ調査及び海岸清掃活動を行いました

本学の環境学部1年生は、毎年「環境学フィールド演習」の一環として、世界ジオパークにも認定され、国立公園でもある浦富海岸の鴨ヶ磯で漂着ごみ調査及び海岸清掃活動を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策(参加者全員に事前健康チェックシートの記録・提出、マスク着用義務、バス移動時の1台当たりの乗車人数を半分に以下にする等)を充分に行ったうえで6月2日に実施しました。

また、3密をできる限り避けるために、今年は鴨ヶ磯の他に、城原海岸も活動対象地とし、2か所に分散して活動を行いました。

まず、本学の教員から学生たちに国立公園の保護と利用とのバランス確保の重要性について、また、海洋漂流ごみや海岸漂着ごみの現状と課題について説明がありました。その後、学生たちは互いの距離をできるだけ確保しながら海岸全域に分散して、漂着ごみの起源・性状・特徴やマイクロプラスチックを調査した後、回収作業を行いました。回収物は岩美町の分別方法に従って指定袋に入れた上で、海岸から長く続く階段を上って道路まで運搬しました。

今回の活動を通じて学生たちは、自然の景観だけではなく、海の生態系を守るため漂着ごみの回収作業がもたらす効果や海ごみを発生させないための方策についても考えることができました。



▲漂着ごみの回収作業(城原海岸)



▲漂着ごみの回収作業(鴨ヶ磯)



▲マイクロプラスチック調査(鴨ヶ磯)

一般社団法人生命保険協会と寄附講義に関する覚書の締結を行いました

6月23日、本学(学長 江崎信芳)と一般社団法人生命保険協会(代表理事・副会長 小林研一 氏)は、今年度後期から開設する寄附講義の運営に関して覚書を締結しました。

寄附講義の目的は、人生100年時代という超長寿社会を迎え、生活環境や働き方、生き方が多様化していく中で、生命保険等の役割について理解を深めようとするものです。生命保険だけでなく幅広く金融・社会保障等の制度の現状を学び、課題解決に向けて考える姿勢を醸成します。

生命保険協会が全国23大学と連携して開講する寄附講義の一つとなります。経営学部だけでなく、環境学部の学生も保険、金融について知り、どう生きていくか学ぶ機会となることを期待しています。



▲覚書を締結する江崎学長(左)と小林氏(右)

環境学部徳田悠希講師が平井伸治鳥取県知事へ第61次南極地域観測隊の帰還報告を行いました

7月17日に小林朋道環境学部長と徳田悠希講師が平井伸治鳥取県知事へ第61

次南極地域観測隊夏隊重点研究観測の帰還報告をしました。

徳田講師はサンゴの研究と地球環境の研究の関連性について平井知事に説明し、観測から新たな知見が得られる可能性を報告しました。また、小林学部長からは徳田講師のサンゴ研究における世界的な発見についても紹介されました。

平井知事からはお得意の「ダジャレ」も飛び出すなど、和やかな雰囲気の中で報告が行われました。

最後に平井知事から徳田講師に、研究が大いに進展することを期待しているとの激励の言葉をいただきました。



▲試料の説明をする徳田講師(右)



▲記念撮影の様子 平井鳥取県知事(左) 徳田講師(中央)・小林環境学部長(右)

本学食堂で学生の食事費用の一部支援を行いました

新型コロナウイルス感染症拡大による影響で収入減少となり、経済的に困難な状況にある学生に対して、学内外から寄附いただいた新型コロナウイルス感染症に係る学生支援寄附金(※)を財源に、7月20日から9月4日までの前期授業期間、学生食堂における食事に係る費用の一部支援を行いました。本学の学生を対象に食堂の300円以上の食事に対し、200円の補助割引を行うという支援内容です。

支援を利用した学生からは、「この支援が



開始されてから毎日利用しており、経済的に助かっています。」という声がありました。

寄附いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

※新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援策に使用する目的で募集しており、現在までに学内外から多くのご支援をいただいています。寄附金についての詳細は下記本学Webページをご確認ください。
www.kankyo-u.ac.jp/news/2020/20200619001/



▲支援を利用する学生

本学の公式YouTubeチャンネルを開設しました

8月11日、公立鳥取環境大学公式YouTubeチャンネルを開設しました。現在、下記の動画などを公開しておりますので、ぜひご覧ください。今後も、本学の教育・研究内容などに関するコンテンツを増やしていきます。



▲キャンパスツアーVR動画 360度カメラを使用し、キャンパス内を紹介します。



▲環境学部紹介動画 環境学部の学びについて紹介します。



▲経営学部紹介動画 経営学部の学びについて紹介します。

下記URLよりご覧いただけます。
www.youtube.com/channel/UCclvYUH3dsAEltTkn_8u9w

